

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102364		
法人名	社会福祉法人 義風会		
事業所名	足守荘グループホーム		
所在地	岡山市北区下足守1898番地		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念『生きがいの探求・生きがいの創造』を基本として、等グループホームの基本理念『①入居者が主体②日々穏やかに過ごせる③コミュニケーションを重点に置き、心のケアが出来る④望まれることを把握して対応出来る⑤気軽にいろいろな方が立ち寄れるグループホーム』をスタッフ全員で共有認識し、個性を尊重した家庭的で温もりのあるケアの提供を目指しています。入居者さんに笑顔で安心して過ごして頂けたらと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの基本理念をスタッフ全員が共有し、入居者の皆様が日々穏やかな表情で家庭的な雰囲気の中で生活されている様子がうかがわれました。サービス評価も活用され、職員全員で次のステップに向けた目標が話合われて「目標達成計画」が作成され、具体的な取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で取り組んでいる「地域づくり」を念頭におき、グループホームの基本理念を意識統一して、職員全員で実践できるように努めている。「気軽に立ち寄れるグループホーム」を目指している。定期的な話し合いの場で確認している。	法人で取り組んでいる「地域づくり」を基にして、グループホームの理念をつくり、その理念を職員で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や学生のボランティアの方々の来訪、保育園・幼稚園児とのふれあいや移動販売を利用するなど、地域の方々と接する機会を持っている。	学生のボランティア、園児の訪問など地域の方々とつながりながら暮らしている。また職員も近隣の町内にお祭りのチラシ配りをして、地域の方とのふれあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや職業体験、理美容の来訪など積極的に行なっている。利用者も混乱無くいきいきと接している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事計画や運営状況、また評価結果を報告して意見を頂き、反省点や今後の課題として職員と話し合い、グループホームの質の向上に向けて活かしている。地域包括の職員に参加して助言頂いている。	運営推進会議ではグループホームの運営状況等を報告し、参加者の意見を頂き、そこでの意見等をサービスの質の向上に活かしている。	出来れば会議を2カ月に1回開催に向けての努力をお願いしたいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な空き状況の報告をや事故報告を行っているが、今後も更に理解協力が得られるように努力していきたい。	市町村担当者と連絡をとり、事業所の実情や取り組みを伝えながら、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解出来るよう職員間で勉強会を行い、利用者個々に合った適切な対応が出来、安全に過ごしてもらえる様に取り組んでいる。言葉かけ全般にも全員で意識、注意するように心がけ、家族への連絡や話し合いも行なっている。	身体拘束しないケアを職員間で正しく理解できるように勉強し、また利用者の方が安全に過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な言葉使いや態度等は職員同士で指摘し合える環境を作り、虐待になり兼ねない不適切なケアに繋がらないよう努めている。個々に応じた声かけを心がけており、職員自身のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会を行い、必要時しっかりと支援できるように知識や仕組みを身につけていくよう心がけている。職員個々の意識を高めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の支援方針や医療連携体制、出来ること、出来ないことを具体的にわかり易く説明して同意を得ている。利用者や家族の不安や質問にもしっかりと説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との定期的な連絡で希望や要望を聴いたり、来所時の会話の中で想いを推察し、職員全員で認識しサービスに反映させている。家族の声をしっかりと聞くようにしている。また利用者とのコミュニケーションを十分に図り意向を把握している。	利用者や家族の意見をしっかりと聞くように努め、聞かせていただいたことは全職員で把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員の意見が言いやすい雰囲気を作り、最低月1回はホーム内でミーティングを開き、個々の考えや要望を話せる機会を設けている。必要に応じ、代表者を交えた話し合いの機会を持っている。	ミーティングで個々の職員の考えや要望等を話せる機会を設けて、運営に反映させている。また職員間で業務のとらえ方の違い等がある場合は代表者を交えての話し合いもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の長所を認め、意欲的に職務に取り組めるような環境づくりを行なっている。一人ひとりの意向を確認しながら、資格取得への支援を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修に参加し、研修後は報告書を提出、伝達を行なっている。定期的な法人の研修会やGH内の勉強会を行い職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所との交流をもち、意見交換等を行いサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、ご本人・ご家族の意向を十分に訊き、生活状況や心身状態、生活歴や趣味などを把握して、混乱なく安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、ご家族の意向や要望、不安に思っておられることを十分に伺い、事業所として、支援出来ることを具体的にお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の状況や状態、思いを確認して、希望されるサービスの選択枝を提示し、必要であればケアマネージャーや他事業所に繋げるなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の喜怒哀楽を共有し、信頼関係を深め家族的な関係作りを行なっている。コミュニケーションをとる中で、教わることも多々あり、年長者として尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時はもちろん、定期的に近況を報告し、特変ある場合はその都度連絡を入れて情報交換をしている。家族との良い関係を築き、一緒に利用者を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院に行ったり、近所の友達が遊びに来られるなど、その人の生活習慣を大切にしている。	近所の友達の訪問や在宅時から利用している美容院の利用等馴染の継続支援を心がけている。お祭り時には絵手紙などの作品を展示している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や利用者同士の関係を職員全員で把握し、時には介入して、円滑な人間関係が保て、楽しく穏やかに生活出来るように対応している。一人を好む人も状態をみながら、関わり合えるように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活状況や身体状況、習慣等を情報提供して、新しい場所でも暮らしの継続性が断たれないように配慮している。職員が訪問することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取る中で表出しない思いを汲み取ったり、理解困難な方には日々の援助の中で意向や思いを推察している。家族には随時希望・要望等訊くようにしている。	1人ひとりの思い希望等は日々の会話の中で聞かせもらうようにしている。困難な場合は支援の中での推察や家族に訊ねるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは援助していく上で重要な要素であることを職員全員で認識し、プライバシーに配慮して本人・家族・知人の理解を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身の状態を把握し、出来ること、出来ないことを見極めてその人らしく生活出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりから利用者の思いや意向を把握し、家族との意見も聞きながら利用者の視点に立ったケアプランを作成している。状況変化等職員全員で共有して話し合いプラン作成に反映させている。	本人との日ごろの関わりの中から思いや意向を把握し、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を活かした介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース、食事量やバイタルチェック表、排泄表等を記録して職員全員で情報を把握している。口頭での申し送りや申し送りノートを活用して確実に正確に情報が伝わるように努めている。また記録のとおり方についても勉強している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急性や家族の状況に応じて、臨機応変に受診やその他送迎等の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、移動販売等の利用や地域ボランティアさんの協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ご本人・ご家族が希望される医療機関を受診して頂いている。受診対応は基本ご家族にお願いしているが、困難な場合は職員が対応している。利用者の日頃の状態がわかるように全員分記録にまとめている。	本人、家族が希望される医療機関での受診等適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理相談や医療面での相談や助言、対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時には医療機関との情報交換を行い、家族との連絡も密にとり協働しながらスムーズな退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態重度化した場合のご本人・ご家族の意向を確認して、事業所で行なえる支援について家族に説明し理解してもらっている。随時家族の意向を確認しながら医療との連携も図っている。ターミナルケアについては今後の課題で職員の意識づけから始めていけたらと思う。	入居時に重度化等に向けた方針について、本人、ご家族の意向を確認し、事業所で出来る支援を説明し理解してもらっている。看取りは家族の意向もありませんが、今後の課題として職員の意識づけから始めていけたらと思われる。	ターミナルケアは今後の課題との話を伺いました。地域の関係者と共にチームでの支援に取り組んでみていただきたいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置については勉強会を行なっているが、今後も各職員の意識を高めて知識や技術の習得に努めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使い方や避難経路を定期的に点検確認している。緊急時の協力体制も整えている。	法人内や地域との協力体制を築き、避難訓練をしている。緊急連絡網も整備できている。	水害、地震、夜間想定等で利用者が安全に避難出来る対策にも取り組んで下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや援助はその場面に合わせ、本人の意向やプライバシーを尊重し行なっている。不適切な時は職員間で指摘し合える関係を作っている。	1人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないよう、とくに言葉づかいに気をつけて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を大切にコミュニケーションが取れるよう工夫して、要望や希望が言いやすいように接している。本人が選択や決定をし易い声かけを行ない働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムの中で、個々の意思や習慣、体調などを考慮しながら、その人のペースで過ごせるように支援している。利用者中心のペースで過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ウイッグでおしゃれを楽しんだり、好きな洋服を選んで着ておられる。行事日などは希望があればお化粧品のお手伝いをする。マニキュアで指先のおしゃれも楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会など利用者の希望を訊き一緒に料理を作っている。ケーキにも自分で好きなものを飾ってもらっている。個々にあった食べやすい形態で提供している。	食事が楽しみなものになるように、行事食は好きなものを職員と一緒に準備し、調理や片づけもしている。通常の食事も入所者の食べやすい形態にも配慮されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを考えた食事を提供している。安全に摂取出来るようにその時の状態に合わせて、見守り・工夫を行なっている。水分食事摂取量を記録し、その方に適切な量やバランスを考えながら食生活を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前うがいをしてもらい、毎食後声かけ、一部介助し歯磨き、うがいをしている。義歯、部分義歯の方は夕食後義歯ケースに入れ保管、定期的に義歯洗浄剤で清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた下着やパットを使用してもらい、一人ひとりに合わせた声かけをしている。状況の変化により使用する種類も見直している。プライバシーを配慮して定時下着確認を行い、清潔保持時のために援助している。	1人ひとりの排泄のパターンや習慣を活かして声かけや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンや排泄物の状態を把握して、排便チェック表をつけ確認している。水分や食べ物の調節も行なうが、困難な方は状態を医師や看護師に報告相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調観察をしながら、安心して入浴出来るようにその方に適した声かけをしている。無理強いをしないように、拒否のある方にも声かけや誘導の工夫をして本人の気持ちが動くように努力している。	希望やタイミングに合わせて体調観察しながら、入浴が楽しめるよう支援している。拒否される方にも声かけ、誘導等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本日中はレクや体操、手作業をもらい、活動的に過ごせるように生活リズムを整えているが、強制ではなく個人の意思や希望を尊重して自分のペースで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書をファイルし職員全員で確認出来るようにしている。飲み忘れや誤薬防止のために、複数の職員の眼を通すようにし、声かけを行なうようにしている。変更時はその都度申し送りをし、体調観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや好きなことを把握して、楽しんで取り組んで頂けるように工夫している。個別にしたいことを訊いて行なうこともある。家事手伝いも意思を確認しながら無理の無いように役割として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩り、施設のお祭りなどに参加している。家族や地域のボランティアの方が協力して下さったり、希望により買い物等の外出できる機会を設けている。	外出出来ない方はおられないが、希望により買い物等に出かける機会を支援している。ホーム内だけでなく一階の仏間に拝みに行ったり、ベランダで外気浴や散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や近くのスーパーので買い物の際、お金を渡し支払ってもらっているが、「分からない」と手にされない方も多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、電話に出たりする機会を作っている。また手紙や葉書なども出している。身内や知り合いと電話されることで双方喜んでおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には月ごとの季節感あふれる壁画を皆で作成し飾っている。利用者や来訪者に楽しんで頂けるよう、絵手紙や作品を掲示している。スペースに限りはあるが、落ち着いてくつろげるように、ソファなど工夫している。室温や湿度にも気を配っている。	共用の空間は皆で作成した季節感のある壁画や絵手紙などの作品を掲示して、居心地よい空間づくりが出来ている。室温や湿度にも気配りがみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面的にとっても無理な面があるが、そんな中でも一人で座れるソファなど置き、落ち着ける居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には自分で塗った季節のリースや個々の好きな物を飾っている。馴染みの道具やお仏壇等を置き、本人・家族の意向を取り入れた、心地よく過ごせる空間を作っている。壁画で窓も工夫し楽しんでもらえるようにレイアウトしている。	居室は本人、家族の意向も取り入れて、個々に好きなものや馴染みのものを工夫して、心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの認識力によって、声かけをしたり、わかりやすい目印を作成するなど混乱しないように工夫している。居室内は危険予測して環境整備している。		